

「人に優しい医療」への貢献



ディービエックス株式会社
株主通信

2015年3月期報告書

2014年4月1日から2015年3月31日まで

証券コード3079



DvX ディービエックス株式会社

代表取締役社長
千葉 茂

 株主の皆様へ

To Our Shareholders

過去最高益、上場以来連続の増収、増益、増配を達成しました。
次なる成長ステージに新体制で臨んでまいります。

Q 当期累計期間の業績について総括をお願いします。

A 2015年3月期は、全般的には停滞する経済状況の中、
年度前半には1ドル102円前後で比較的安定していた
米ドル為替水準が、1ドル120円超まで急激に円安が進みまし
た。また、医療機器業界においては2014年4月には診療報酬

が改定され、当社の取り扱う商品の償還価格については全般的
には引き下げられることとなりました。こうした中、当社は、売上
高286億4千7百万円（前期比8.4%増）、営業利益14億2千
9百万円（同10.2%増）、経常利益14億5千8百万円（同11.3
%増）、当期純利益9億1千9百万円（同16.7%増）での着地と
なり、2015年3月期も増収増益を達成することができました。

Q 不整脈事業、虚血事業それぞれの市場の見通しと今後の成長に向けた事業戦略についてお話しください。

A 不整脈事業においては、引き続きエリア拡大を推進しております。前期には福井出張所を開設して北陸エリアの開拓を進めることができましたが、今期には南九州エリア開拓の足掛かりとするべく宮崎出張所を新たに開設しております。

虚血事業においては、ACISTの買い替え需要の確実な獲得と、エキシマレーザ血管形成システムのさらなる普及を進めております。同時に新たな収益の柱となる商品の開拓も精力的に行っております。

Q 不整脈事業：市場規模は今後も継続的に拡大していくのでしょうか。また、昨年発売された新商品の冷凍アブレーションカテーテルについて教えてください。

A 当社が対象としている循環器分野の疾患は高齢者の罹患率が高いのですが、超高齢社会の進展等の要因から患者数が増加しており、将来推計人口に基づけば、今後も2040年代までその傾向が継続すると考えられます。

また、冷凍アブレーションは、不整脈の一種である発作性心房細動の治療に用いられる術式で、従来の高周波エネルギーを用いたアブレーションに比べて手術時間が短いなどの点で患者様にもメリットがあります。そこで使用される冷凍アブレーションカテーテルは昨年から取扱いが始まった商品ですが、売上は好調に推移しております。

Q 虚血事業：エキシマレーザの普及に伴って増加する消耗品売上（コロナリーカテーテル等）は、今後の収益に貢献していくのでしょうか。

A エキシマレーザ血管形成システムで使用されるコロナリーカテーテルの一種であるポイントナイン・カテーテルが、2014年6月に保険適用され商品ラインも増えましたので、今後も収益への貢献が期待できます。

Q 2015年4月1日付で千葉副社長が社長に就任、若林誠社長は会長に就きました。お二人のそれぞれの役割についてご説明ください。

A 業務執行の面で権限移譲されていますが、理念も課題も共有しながら共に経営にあたっています。若林会長は、これまで29期にわたる成長を実現してきた創業者であり、当社の企業理念を社内に浸透させる力は創業者ならではのものです。当社の企業理念は新商品の開拓などの場面においても非常に重要な意味を持ってきます。私自身も、それを変わらないものとして社内に定着させつつ、自らの経験を活かして新風を

ミッション（企業理念）

■ 私たちは、医療業界で患者・医師・医療関係者のニーズを絶え間なく追求し、創造的なソリューションを提供する事で、社会に貢献する集団です。

■ 目標に向かって個々の力を最大限に発揮する『心』ある社員により集団を結成し、確かな未来を見据え、目的意識を明確に保持し、変化に対応する新しい企業です。

吹き込みながら安定的かつ持続的な成長を目指してまいります。また、2016年3月期は第30期であり、2016年4月には30周年を迎えることになります。その先の30年も成長を持続できる経営基盤づくりも現経営陣の役目であると考えています。

Q 今後、経営に影響を及ぼすリスクとしてはどのようなことを考えていますか。その対策についてお話しください。

A たとえば為替レートの変動がリスクとしてあげられます。円安が進行することは当社の虚血事業（2015年3月期の売上高構成比15.3%）における輸入総代理店業（同10%弱）にはマイナスの影響があるため、ヘッジ策を講じながらリスク低減を図っております。

Q 株主の皆様へ新社長としての抱負とメッセージをお願いします。

A 当社は、2014年9月3日に東京証券取引所市場第一部への上場を果たし、社員の士気も高い中、全社一丸となってさらなる飛躍に向けて取り組んでおります。これからも株主の皆様のご支援にお応えすべく継続的な企業価値の向上に邁進してまいります。当期の配当は、普通配当17円に加え、東証一部上場を記念した記念配当を1円とし、合計18円とさせていただきます。今後も株主の皆様におかれましては末長いご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

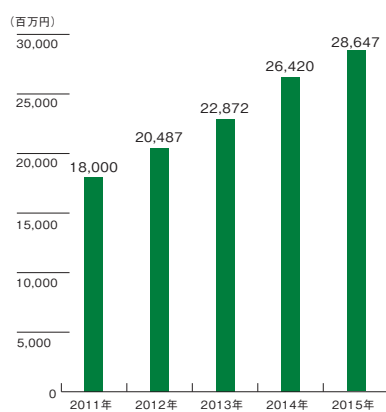
財務ハイライト (2014年4月1日～2015年3月31日)

2015年3月期のポイント

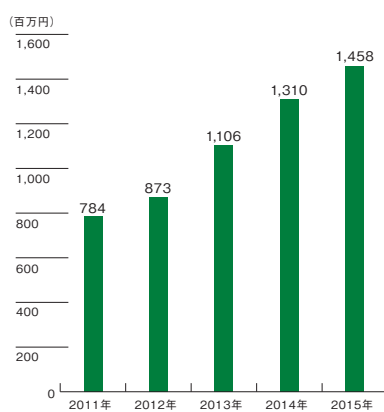
売上高、利益ともに過去最高を更新。
上場以来連続の増収、増益、増配を達成。

2014年9月3日に、当社株式の東京証券取引所市場第一部への上場を実現するとともに、経営の効率化や販売体制の強化に取り組み、業容の拡大を目指した結果、売上高、利益ともに過去最高を達成しました。

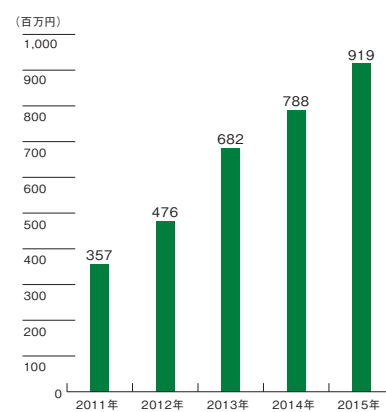
売上高



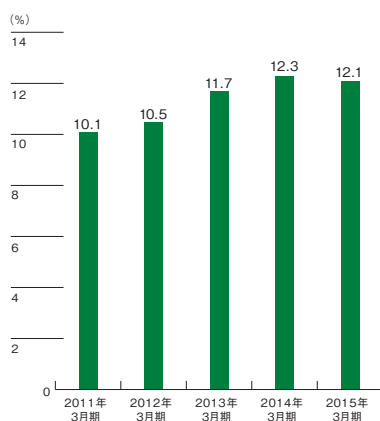
経常利益



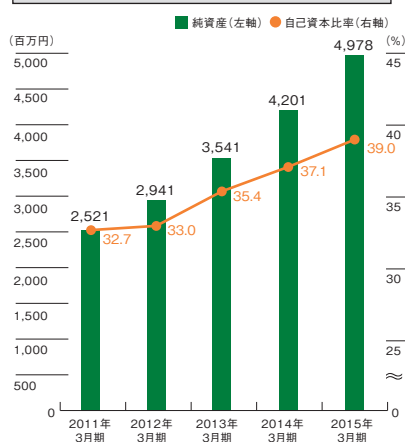
当期純利益



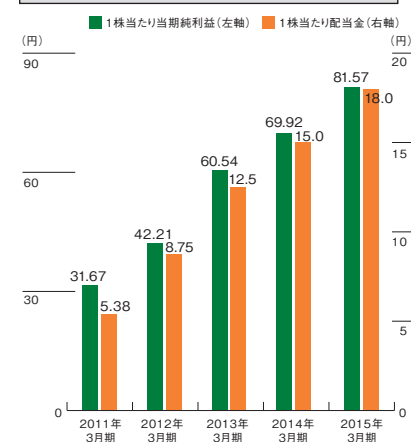
ROA (総資産経常利益率)



純資産 / 自己資本比率



1株当たり当期純利益 / 1株当たり配当金



2011年10月1日、2012年10月1日および2014年4月1日を効力発生日として1:2の株式分割を実施いたしましたので、分割割合を乗じて算出しております。

ポイントの解説

1 ROA、ROEともに高水準で推移

資本効率の高さを表すROAとROEはともに高水準で推移しております。ROA(総資産経常利益率)は12.1%と、前期(12.3%)に続き12%台を確保。また、ROE(自己資本当期純利益率)は20.0%と、前期(20.4%)に続き20%台を確保しました。

2 連続増配

配当金については、配当性向20%を目途として決定しております。当事業年度の配当につきましては、この方針に基づき1株当たり17円(配当性向 20.8%)の普通配当に、東証一部上場を記念した記念配当1円を加えることで、1株当たり18円(配当性向 22.1%)とし、2007年の上場以来の連続増配を達成しました。

事業セグメントの状況

不整脈事業 Arrhythmia Business

当期実績

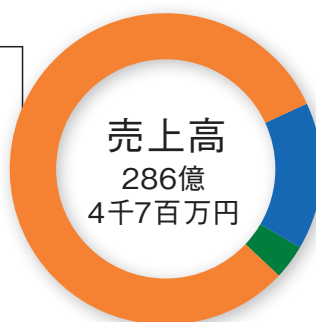
売上高 232億6千8百万円

既存顧客に対するサービスの充実に努めるとともに、新規顧客の開拓にも注力いたしました。その結果、アブレーションカテーテル(心筋焼灼術用カテーテル)類や検査用電極カテーテル等の主力商品の販売数量が増加したことから、当事業年度の売上高は232億6千8百万円(前期比7.7%増)、セグメント利益は33億7千7百万円(同6.5%増)となりました。



電極カテーテル

不整脈の診断や薬効評価に欠かせない心臓電気生理検査用カテーテルおよび、アブレーション(焼灼)治療用カテーテル等があります。



事業セグメント別売上高構成比

- 不整脈事業 81.2%
- 虚血事業 15.3%
- その他 3.4%

*「その他」においては、脳外科商品、放射線防護用品、書籍等を販売しております。

エキシマレーザ血管形成システム

現在日本国内において「エキシマレーザによる心内リード除去術」「エキシマレーザによる冠動脈形成術」の2つの治療に適用が認められています。

虚血事業

Ischemia Business

当期実績

売上高 43億9千2百万円

輸入総代理店として取り扱っているエキシマレーザ血管形成システムの関連商品が、本体の普及に伴って好調に推移したものの、円安の影響により、輸入商品の仕入価格が全般的に上昇することとなりました。一方、冠動脈ステント等を取り扱っている販売代理店としては、既存顧客の深耕および新規顧客の開拓に注力し、好調に推移いたしました。その結果、当事業年度の売上高は43億9千2百万円(前期比5.4%増)、セグメント利益は13億9千1百万円(同1.0%減)となりました。



営業の概況

Operating Results

不整脈事業の営業エリアの拡大、 新商品ラインナップの拡充に取り組んでおります。

さらなる業容拡大を目指すためには、不整脈事業の営業エリアを拡大することが不可欠であるとの認識の下、前期において福井出張所を開設し、北陸地域への営業展開を行ったのに続き、当期では南九州地域における営業展開の足掛かりとするため、宮崎出張所を開設いたしました。また、虚血事業においては、エキシマレーザ血管形成システムのさらなる普及を目指して、下肢末梢動脈治療用レーザカテーテルの薬事承認に向けた治験を進めました。

2016年3月期(通期)の業績予想

Outlook

販売拡大のための取り組みを継続します。

不整脈事業において、高度な専門性を活かして新規顧客開拓を行うことで、継続的に営業エリアの拡大を目指してまいります。また、メーカーとの関係強化を通じて、仕入コストの低減にも取り組んでまいります。虚血事業においては、不整脈事業との連携を強化しつつ、自動造影剤注入装置「ACIST」の買い替え需要を着実に獲得するとともに、エキシマレーザ血管形成システムのさらなる普及を図ることで、販売拡大を目指してまいります。

2016年3月期の業績予想

(百万円)	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2016年3月期	31,589	1,530	1,530	993
2015年3月期(実績)	28,647	1,429	1,458	919
増減率(%)	10.3	7.0	5.0	8.0

当社に関する詳しい情報は、ホームページをご覧ください。

<http://www.dvx.jp/ir/index.html>

最新のIR情報を掲載しています。

dvx

検索

Front Line — ご挨拶 —

社長交代のご挨拶



千葉 茂 (ちば しげる)

代表取締役社長

1982年4月	ニッタン(株)入社	2003年4月	(株)イーヴィースリー入社 代表取締役社長
1986年4月	日本メトロニック(株)入社	2004年1月	(株)ゲッツブラザーズ(現セント・ジュード・メディカル(株))入社 バイスプレジデント
1992年2月	日本ビタロン(株)入社	2006年4月	同社取締役
1997年9月	同社代表取締役社長	2013年4月	当社入社 執行役員副社長
1999年5月	メトロニック社(米国)入社 ビタロンアジアパシフィックジェネラルマネージャー(兼任)	2013年6月	代表取締役副社長
2001年5月	メトロニックゾーメド社(米国)入社 メトロニックゾーメドアジアパシフィックジェネラルマネージャー	2015年4月	代表取締役社長(現任)

2015年4月1日付で、代表取締役副社長から代表取締役社長に就任いたしました。第30期を次なる30年のスタートの年とし、

さらなる業容拡大とともに経営体制のさらなる強化に努め、企業価値の向上に全力を傾注してまいります。

新任役員のご紹介

2015年6月26日開催の第29期定時株主総会において、取締役6名の重任に加え、下記2名の取締役(うち社外取締役1名)の新任が承認されました。



平能 直弘 (ひらの なおひろ)

取締役

1990年4月	(株)大和銀行(現(株)りそな銀行)入行	2006年4月	同社執行役員経営管理部長
1999年11月	ソフトバンクファイナンス(株)(現SBIホールディングス(株))入社	2008年6月	同社取締役執行役員経営管理部長兼業務部長
1999年11月	フォレックスバンク(株)(ソフトバンクファイナンスグループ)入社	2010年11月	当社入社
2002年3月	(株)ウイン・インターナショナル入社	2011年4月	総務人事部長
2003年4月	同社経営企画室長	2012年4月	執行役員経営管理部長
		2015年6月	取締役執行役員経営管理部長(現任)

キャリア

1990年、早稲田大学法学部卒。大和銀行(現りそな銀行)に入行し、市場性リスク管理、デリバティブディーラー、外国債券ファンドマネージャーを経験した後、金融系ネットベンチャーの立ち上げに参画し、マーケティングやシステム開発のみならず、IPOを目指す企業の仕組み作りや合併企業設立に従事いたしました。

当社では、IR、法務・コンプライアンス推進、人事労務、総務管財、情報システムと多岐にわたる業務を担当しております。

新任取締役としての抱負

急速に進む超高齢社会を背景とし、医療機器業界も大きな変革を求められております。金融、ITと、異業界でのキャリアを活かし、株主様をはじめステークホルダーの期待に沿える経営管理体制の改善に努めることで、医療の将来像を見据えた経営の一翼を担う覚悟でございます。ご支援の程よろしく願いいたします。



堂垣内 重晴 (どうがきない しげはる)

社外取締役

1973年4月	(株)三菱銀行(現(株)三菱東京UFJ銀行)入行
2003年5月	(株)テクノ菱和入社
2003年6月	同社取締役
2007年1月	同社常務取締役
2014年4月	同社専務取締役
2015年6月	(株)アサンテ社外取締役(現任)
2015年6月	当社社外取締役(現任)

キャリア

1973年、慶応義塾大学経済学部卒。三菱銀行(現三菱東京UFJ銀行)に入行し、調査部、資金証券部、国際企画部、支店統括部、融資部といった本部や、深川、名古屋、神戸といった営業店の経営も経験いたしました。最後は、理事神戸支社長として30年の勤務を卒業し、テクノ菱和(東証2部、設備工事業)に転じました。同社では、管理本部副本部長や営業本部長として12年勤め、この6月に専務取締役の定年満了により退任いたしました。

新任取締役としての抱負

当社と利害関係のない独立社外取締役として、取締役会の議案について、社内の視点からではなく、一般株主様の視点や外部の視点から判断、チェックするよう心掛けます。また、これまでのキャリアで培われた知見に基づいた助言をすることにより、当社の企業価値がより一層向上するよう努力いたします。

インフォメーション

会社の概要 (2015年4月1日現在)

商号	ディービーエックス株式会社 (DVx Inc.)
設立	1986年4月1日(昭和61年4月1日)
資本金	3億4千4百万円
本社所在地	東京都豊島区高田2-17-22 目白中野ビル5階
代表者	代表取締役社長 千葉 茂
従業員数	247名
事業内容	医療用機器ならびに関連周辺機器の輸出入および 製造販売業、修理業、リース業 医療用機器ならびに関連周辺機器の研究・開発 医療および医療用機器全般のコンサルティング業務 ならびにサービスの内外提供 医療出版および市場調査を含む関連サービスの内外提供
営業所	北海道営業所 東北営業所 茨城営業所 群馬営業所 埼玉営業所 東京営業所 八王子営業所 横浜営業所 静岡営業所 沼津営業所 浜松営業所 名古屋営業所 大阪営業所 広島営業所 九州営業所
出張所	盛岡出張所 栃木出張所 福井出張所 福山出張所 宮崎出張所

役員 (2015年6月26日現在)

代表取締役会長	若林 誠	社外取締役	村松 光春
代表取締役社長	千葉 茂	社外取締役	堂垣内 重晴
取締役	柴崎 浩	常勤監査役	戸田 幸子
取締役	魚住 洋二	監査役(社外)	三縄 昭男
取締役	鍋谷 正行	監査役(社外)	中村 真一
取締役	平能 直弘		

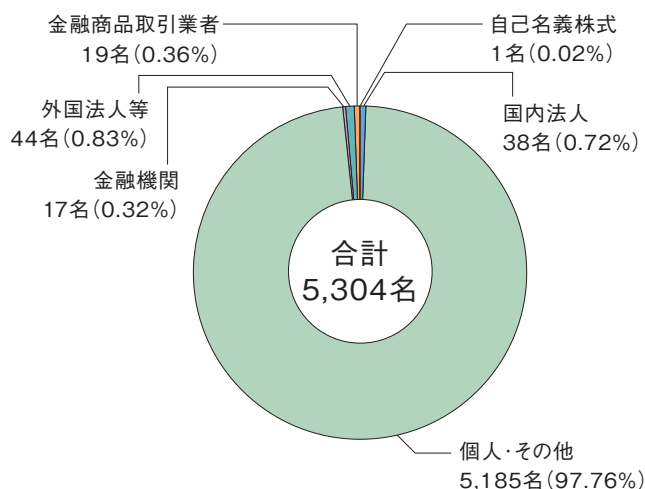
大株主 (上位7名) (2015年3月31日現在)

株主名	持株数	持株比率
株式会社MSS 代表取締役 安東 次夫	3,192,800株	28.30%
若林 誠	1,692,000株	15.00%
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO)	803,500株	7.12%
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505224	285,500株	2.53%
ディービーエックス社員持株会 理事長 檜山 智	187,400株	1.66%
GOLDMAN,SACHS & CO.REG	138,800株	1.23%
岡 文男	136,400株	1.20%

株式の状況 (2015年3月31日現在)

発行可能株式総数	44,000,000株
発行済株式の総数	11,280,000株
株主数	5,304名

所有者別株式分布状況 (2015年3月31日現在)



株主メモ (2015年3月31日現在)

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 Tel. 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所(市場第一部)
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.dvx.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

- (ご注意) 1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。